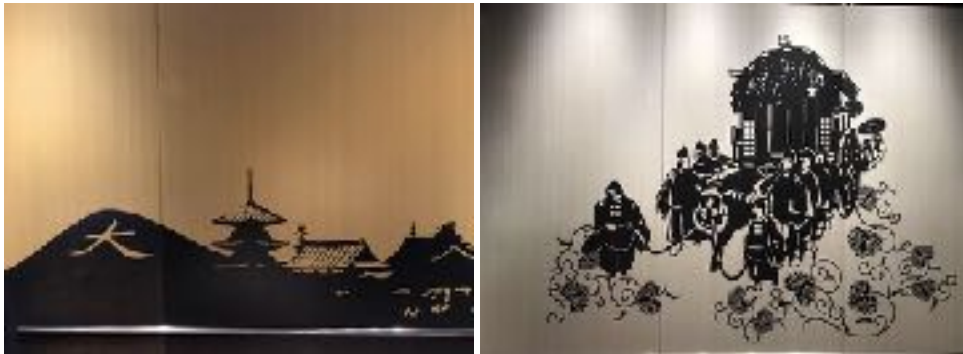


京都タワー

速水 雪乃

(2018年度入学 鈴木ゼミ2期生)

歴史ある寺社仏閣や嵐山など観光地として有名な京都。そこに訪れる多くの観光客、京都で生活を営む住民は、京都タワーに見守られている。京都駅烏丸中央口を出て見上げると京都タワーが聳え立つ。タワーの高さは100m。さらに31mのビルの上に建っているため、全体で131mである。京都で一番高く、展望台からは京都の街を一望できる。京都タワーのモチーフは灯台であり、海に面していない京都市を照らしている。形状は、古都の玄関口にふさわしい形として現在の形状に決定した。来場者は2019年に累計3200万人を突破し、毎年40～50万人が訪れている。京都タワーでは下の階と展望台繋ぐエレベーターから京都らしさを感じられる。金色と銀色ベースの壁のエレベーターがある。金色ベースには名所のシルエット、銀色ベースには京都三大祭のシルエットが装飾されている。



ここまで京都タワーの概要の一部を述べてきたけれど、私は20年間京都で過ごしながらも京都タワーに登ったことがなかった。そこで調べて学んだ歴史や構造、実際に京都タワーを登って感じた魅力を伝える。

京都タワーは1964年に展望台が開業し、2019年に55周年を迎えた。京都タワーの場所には元々京都中央郵便局があった。1953年に京都中央郵便局が移転、跡地を譲り受け、株式会社京都産業観光センター（現 京都タワー株式会社）が設立された。現在、京都タワーは京都駅前にあり、京都のシンボルとなっている。しかし、当時センター社屋ビルの建築計画にタワーは存在していなかった。重役の1人が横浜のマリンタワーから着想を得て、計画に組み込まれることになった。開業直後には1日に5000人が来場した。開業から台風や災害に見舞われることもあったが、高い安全性により損傷を受けなかった。2004年、開業40周年には公式マスコットキャラクターのたわわちゃんが誕生。たわわちゃんは京都タワーのやさしい灯りから生まれたキャラクターである。歴史について調べていくと、京都タワーは構造に特徴があることが分かった。

京都タワーは鉄骨を使っていないモノコック（応力外皮）構造である。骨組がなく、筒状の塔体で力を受け止め全体を支えている。飛行機や船、動物ではエビやカニと同じ仕組みである。この構造により一般建築物の2倍の設計安全率が想定された。先程述べたように、実際京都タワーは災害があった時損傷を受けていない。また、構造の工夫がされているため、800tあるタワーが建っているビルの機能も失われていない。京都タワーを学ぶこ

とで京都のシンボルとなるまでの道筋、さらに建築の素晴らしさを知ることができた。



京都タワーから見た北側の様子

続いて、京都タワーの魅力について述べていく。1つ目の魅力は、京都を一望できることである。京都タワーの展望台があることはもともと知っていた。そして、行く前にホームページを見るとパノラマビューがあったため、ある程度イメージして京都タワーを目指した。しかし、展望台に着くとイメージを超える景色が広がっており、今まで来ていなかったことを後悔するほどであった。展望台からは京都の市街地が360度見渡せる。



設置されている望遠鏡を覗くと寺社仏閣など世界遺産や国宝を間近で見ることができる。雪が積もっている山の様子も見えて取れる。また、展望室の窓に「〇〇（名所） □km」と名所の方向に記されている。それに合わせて望遠鏡を覗くと、目の前に現れる。観光名所のほとんどの場所を認識でき、観光前に訪れるのも京都観光の楽しみ方のひとつだと思う。私が一番驚いたことは大阪のあべのハルカスが見られたことである。あべのハルカスは展望台から50km離れているが、ビルの形がはっきり分かる。このように京都に限らず、大阪までも眺められるのは、京都タワーだけであり、京都タワーの場所と高さが組み合わさった結果である。

2つ目は、出迎えてくれることである。京都駅を出ると京都タワーが見える。京都タワーは旅行や祖父母の家から帰ると、「ただいま」という感覚になる。「おかえり」と出迎えてくれているような安心感がある。

3つ目は、ライトアップの灯りである。京都タワーではLEDによるカラーライトアップがされる。ライトアップ情報がホームページに記載されており、イベントの一環で灯される。色は通常のホワイトの他に16色の光がある、イベントごとに決まった色が灯される場合もある。京都タワーの縦半分で2色の組み合わせもある。このライトアップは京都タワーを身近に感じてもらう意味を込めて、個人でも依頼できる。私は16色あるうち、5色ほどしか目にすることがないため、全ての色を見てみたい。



4つ目は、雲の境目が見られることである。展望台からの景色は空の様子もよく見える。普通に生活していると自分の頭上の天気しか分からない。展望台に行った日は曇りであったが、遠くの南の空は晴れて光が差していた。違う天気の日に行くと、また別の様子が見られるだろう。

京都タワーは京都のシンボルである。災害に負け

ず、今なお存在していることを誇りに思う。いつまでも聳え立ち、旅行者、住民を出迎え続けてほしいと願う。

京都タワー Kyoto Tower オフィシャルサイト

<https://www.keihanhotels-resorts.co.jp/kyoto-tower/>

京都タワーのモチーフとは？ /和樂WEB 日本文化の入り口マガジン

<https://intojapanwaraku.com/travel/72433/>